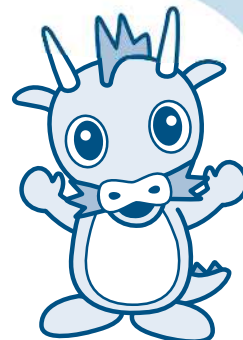


鐘の音

～かねのね～



vol.56

2026.10 発行



大宮の古い地名「鐘塚」。そこに建てられた「パートナーシップさいたま」から男女共同参画推進の鐘の音を響かせたい、そんな願いを込めて名づけました。

11月12日から11月25日(女性に対する暴力撤廃国際日)は「女性に対する暴力をなくす運動」の実施期間です。

この運動にちなみ、パートナーシップさいたまではDV防止セミナーを開催します。

DV防止セミナー



子どもたちのデジタル性暴力 ～被害者にも加害者にもならないために～

講師 永守 すみれさん(ひいらぎネット代表)

動画配信期間 令和8年11月2日(月)～11月30日(月)

申込み方法 令和8年10月7日(水)～11月24日(火)に

パートナーシップさいたまホームページからお申込みください。



デジタル空間が身近になった今、無断で写真や動画を撮られたり拡散されたりすることや、性的なやりとりを無理に求められること、さらにはディープフェイクボロボが作られるといった「デジタル性暴力」が問題になっています。セミナーでは、ネットパトロール活動を通して見てきた現状を紹介するとともに、被害者にも加害者にもならないために、私たちがどのようにこの問題と向き合えばよいのかを考えます。

11月19日は国際男性デーです

「男性・男児の健康に目を向けジェンダー平等を促す」を趣旨として、1999年にトリニダード・トバゴで始まったとされています。

パートナーシップさいたまでは、「国際男性デー」を記念して、講座を実施します。

国際男性デー記念講座



「男らしさ」の枠を外して生きる～次の世代に手渡したい、これからのジェンダー観～

講師 白岩 玄さん(作家)

動画配信期間 令和8年11月18日(水)～12月16日(水)

申込み方法 令和8年10月14日(水)～12月9日(水)に

パートナーシップさいたまホームページからお申込みください。



家庭や学校では、私たちは知らず知らずのうちに子どもたちに、「泣いてはいけない」「弱音を吐いてはいけない」といった「男らしさ」を求めてしまうことがあります。このような中で、男の子たちは生きづらさを感じることがあります。

本講座では、講師ご自身の執筆活動やこれまでの経験をもとに、こうした現状について分かりやすくお話しいただきます。また、ご自身が父親になって感じたことなどにも触れながら、子どもたちが自分らしく生きられる社会をつくるために、私たち大人に何ができるのかを考えていきます。

令和8年10月時点での予定です。最新情報はさいたま市ホームページでご確認ください。



男女共同参画週間記念事業 「教育におけるジェンダー平等を考える」

講師: 田代 美江子さん

(埼玉大学大学院教授(ダイバーシティ推進センター・人文社会科学研究科)、埼玉大学副学長(ダイバーシティ推進担当))



「教育におけるジェンダー平等を考える」を聴講した。学校教育におけるジェンダー平等と言うのは身近でないテーマだったため、興味を持った。

講師は埼玉大学の副学長でダイバーシティ推進担当でもある田代美江子先生。ジェンダー教育の学術的研究者であり、教育現場における実践者でもある。

講義は研究分野におけるセックス、ジェンダーの解説から開始。セックスとは生物学上の区分、ジェンダーは社会文化を背景とする性別役割区分と言われてきたが、現在は、セックスはジェンダーという枠組みの中に包含されるものと理解されているそう。私たちの日常生活には、男女差は人間の本質的な特性で、それを当たり前と捉える「本質主義」が浸透しており、時に差別を生む土壌になっていると言った。例えば、「女の子はおとなしくしていなさい」とか「男の子は泣くな」と言った言動が本質主義の事例だ。

先生は、この本質主義を乗り越えることが「包括的性教育」につながると説明された。「包括的性教育」とは、ユネスコが中心となり開発された「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に沿って実践されるジェンダー教育体系で、子どもたちが成長段階において性を正しく捉え、多様な価値観を養えるようサポートするプログラムだ。家族や自分が所属するコミュニティの慣習や伝統的価値観に縛られることなく、自分らしさを大切に、かつ他者の生き方も尊重する心を育む。授業のひとつでは本質主義に基づく言動に対し、論理的に反論する練習をする。

固定的価値観に基づく大人の言動が子どもたちに与える影響を考え直す機会ともなった。自分が本質主義を再生産する立場にならぬよう注意して行きたい。

(豊田 真美)

【埼玉大学との連携】地域社会の中のダイバーシティ(多様性)講座

この講座は埼玉大学の学生と一般の参加者が同じ講義を受け、見つけた地域課題について話し合い、最終回ではその成果を発表するというものです。

講座の2回目ではゲスト講師の「一般社団法人コンパスナビ」理事兼保護司の高橋さんから、社会の中で困難を抱える女性たち、家庭に居場所がない若者たちの孤独、孤立、貧困から罪を犯してしまう女性や若者たちの居場所づくり、社会復帰の場所での様々な出来事や問題点の話が聞きました。

罪を犯し、刑を終えても帰る場所がない、支えてくれる人がいないため同じことを繰り返してしまふそうです。このため、コンパスナビでは問題のある人たちに寄り添い、根気よく話し合っており、今までの過ちに気づき、新しい自分を見つけて出して更正していく手助けをする活動を行っているそうです。このような時間をかけた活動に感動しました。

話を聞いた感想の中には「このような人が居ることを知らなかった」「やはり罪を犯した人はこわい」などの意見が出ていました。

間違ったり、失敗したりしても再起できる社会づくりが求められていると思います。間違ったり失敗したりしたら、身近に相談できる人や場所に繋がり、どうして失敗したのか反省して、これからのことを自分の力で考えるための教育が必要なのだと感じます。

この後は「教育」「働き方」「障害」「政治」をテーマに学生と話し合います! どのような成果発表になるのか楽しみです。

(武田 礼子)

講座の実施報告はこちら



公募型共催事業のご紹介

さいたま市男女共同参画推進センターと、団体が協働で実施することで、地域における多様な課題の解決につなげていくことを目的として、公募型共催事業を実施しています。
今年度は全6団体が実施中です!

① 蒼い空の会

あおいそら こころのケア講座

② 雨上がりの庭

LGBTQ+の憩いの場「雨上がりの庭」

③ 彩 (IRODORI)-人間関係とバウンダリーをまなぶ会

ご存じですか? 家族・人間関係を円滑にする「バウンダリー」

④ さいたま市女性学研究会 (ゆい)

ワークショップ「ブックトーク」/ 図書情報紙「ゆい」作成

⑤ TG+NBの会

トランスジェンダー・Xジェンダー (ノンバイナリー) 当事者ミーティング

⑥ 特定非営利活動法人マダムウィッチーズ 子育て支援事業部 Dulces (ドルセ)

女性の社会活動を応援する、託児付きワークショップ

詳しくはホームページをご覧ください



傷ついた心のケア講座・対面講座

講師：宇野 慶子さん(蒼い空の会 代表、NPO法人レジリエンスこころのcare 講座ファシリテーター養成講座修了者)



遅刻・早退・昼寝自由・少しの飲食OK:「えー、そんな講座あり?」

「あり」です。それ

れはこの講座が、心を開放し、自由に自分の感情を見つめる時間だからです。講座中、これまで忘れたい見落とししたりしてきた、小さな楽しみや夢を思い出し、色を塗ったり、想いを書く時間があります。が、するかどつかは自由です。

トラウマはDVだけでなく、ハラスメント、いじめ、虐待、災害など、誰もが遭う可能性のある衝撃的な体験です。昔から「体の傷は治っても心の傷は治らない」というテーマは、数々の名作や歌詞にも見られます。講座ではトラウマのメカニズムや、いかに心身に影響があるかを学びます。

「知は光なり」と言いますが、体や心のケアをはじめ、回復のヒントが多数あることを理解すると、徐々に自分らしさを取り戻すことができます。

講師は優しい雰囲気ですが、本質をズバっとおっしゃるかっこ良い方です。

講座には様々なテーマがありますから、関心のあるものから始めることができます。

身近な暴力は戦争と地続きだと思えます。平等な価値観を大切にすると人々がいてこそ、明るく優しい世の中を作ると思っています。

(Mみえ)

カサンドラ症候群を知る講座

「もしかしたら私かも？」

講師：真行 結子さん(カサンドラとその家族のための支援組織「フルリール」代表)

カサンドラ症候群は、発達障害の特性(自閉症スペクトラム症、注意欠陥多動症、限局性学習症)のある行動や言動をするパートナーとのコミュニケーションの中で自分の気持ちを理解してもらえないという状態が続く、心身に不調が現れることを指す。

今回はカサンドラの体験者であり、2014年にカサンドラとその家族の支援組織「フルリール」を立ち上げて1500名以上のカサンドラ、発達障害の方々の相談を受けてきた真行結子さんの講義だった。

真行さんは、そもそもカサンドラ症候群は正式な診断名ではなく認知度が低い、周囲に理解されにくく、一人で悩むことが多くなり、悩みが深刻化し孤立してしまう傾向があるという。カサンドラのほとんどはパートナーとコミュニケーションが取れない悩みを持っているようだ。紹介してくれた4人の相談ケースは、言葉かけを工夫して自分の気持ちをパートナーに伝えることで結婚生活を続けていた例や、カサンドラの自助会を通して自分を回復し離婚準備をしている例、自分が求めるパートナーでないと感じ離れ離婚した例などだった。最後に「パートナーが発達障害でもすべての人がカサンドラ症候群ではない。カサンドラは共感性が高く優しくて頑張り屋さんが多い。相手を変えるのではなく自分を守る視点を持つてほしい。ぜひ、自分を大切にしてください。必ず回復の道筋があるので自分にとって幸せな道を選んでほしい」と悩んでいる方々にメッセージを送ってくれた。

(麻生 水緒)



【生涯学習総合センターとの連携】さいたま市民大学

ライフプランコース「実家の片付けを知る、考える」

講師：齋藤 弘道さん(遺贈寄附推進機構株式会社 代表取締役)



ある新聞社のアンケートによると、人生の終わりを見据えて片付ける「終活」が必要と考えた人は96パーセント。その中で最もやりたいことを尋ねると、家の中の整理や不要になつたものを処分すること、という回答が1位だった。

実家にもものがあふれる理由は、大きく3つあるという。まず収納が広いこと、そして使用頻度が低いものでも時が止まったように不要品が放置されること、最後にもったいないという心理によるものだと述べている。

あふれたものをどうするか。「自宅の整理」と捉える親と、「安全に暮らしてほしい」「将来のため」という子どもでは片付けへの視点が異なる。トラブルを避けるために、子どもは親を急かさず、原則として一緒に作業したほうが良いとアドバイスする。そして、思い出の品は後回しにした方がよいという。講師は、自身の専門である「財産」についての片付けも「財産はあとで。私の財産を呼びかけた」と思われてしまつと注意を呼びかけた。親子で解決できないときは、不法投棄や追加請求をしないよう、安心な専門業者を呼んで片付ける方法もあるとした。

他方で、講師は「終活は全員がやらなくていい。親族に頼れない方が増えてきているので、そのような方が準備するなど、必要な方が取り組めばいいのでは。多少(子どもたちに)迷惑をかけてもいい」とあまり思い詰めないように呼びかけた。

実家の片づけという、何から手を付けたらいいのかと途方に暮れる。しかし、順番を守ることや、話し合うことといった今回の講座のキーワードが大きなヒントになると感じた。

(滝山 展代)

相談のご案内

●相談は無料です。●秘密は厳守します。

●女性の悩み電話相談

女性の生き方、家族の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。

男女共同参画相談室

子ども家庭総合センター内

☎048-711-6650

月～金／10:00～20:00 土・日・祝休日／10:00～16:00
(年末年始を除く)

浦和区役所 女性の相談室

☎048-829-6129

月・火・水・金／10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)

中央区役所 女性の相談室

☎048-840-6132

火・金／10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)

岩槻区役所 女性の相談室

☎048-790-0158

月・水／10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)

●男性の悩み電話相談

男性の生き方、家族の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。

男女共同参画相談室

☎048-711-6101

第2・第4日曜日／13:00～16:00

●女性のDV電話相談

☎048-762-3880

月～金／10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)

●女性の法律相談(予約制)

女性の弁護士が相談に応じます。

実施場所 パートナースイップさいたま

予約電話☎048-642-8107

実施日時 第2水曜日／13:00～15:50(30分単位)

実施場所 男女共同参画相談室

予約電話☎048-711-5739

実施日時 第1・第3火曜日／13:00～15:50(30分単位)

●男性の法律相談(予約制)

弁護士が相談に応じます。

実施場所 パートナースイップさいたま

予約電話☎048-642-8107

実施日時 第4水曜日／16:30～19:20(30分単位)

ホームページはコチラ▶



＜編集後記＞

自宅にグレープフルーツの木があります。2階を超える高さまで成長し、毎年100個もの実がなります。定期的に伸びる枝葉を伐採しているのですが、中指ほどの大きな棘が数センチ間隔で生えており、切るのも一苦労。実がなるのは楽しみであるものの、危険を伴う枝の手入れはストレス。ジレンマを感じつつ日々木の成長を観察しています。

(豊田 真美)

出かける時、「今日はどこへ出かけるんだっけ?」とシミュレーションをしてから出かけないと途中で「あれ?」。確実にボケているのは間違いないけれど、出かけた先でなんでも話をしていないと嫌なことも忘れてしまい、くよくよ悩まなくなりました。人と会って話せるって幸せです♡

(武田 礼子)

最近、「地方議会は民主主義の学校」ということを思い出す機会があった。私達の困りごとを受ける窓口(議員)は多い方がよい。それが機能していないから必要ないとは思わない。分からないからと知ろうとしない私達がいる。人生初の傍聴を試してみようと思っています。

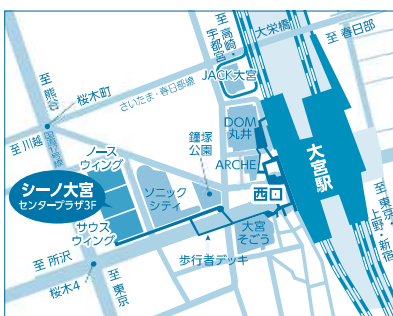
(Mみえこ)

真行さんは「相談者に圧倒的に女性が多いのは『お世話する性』『尽くす性』としての女性のジェンダーバイアスがあるからかもしれない」とこの問題もジェンダー問題として指摘された。社会が生み出したカサンドラ症候群から解放されるにはジェンダーフリーが求められている。

(麻生 水緒)

今年度から編集委員をしています滝山です。普段は団体職員として働いています。家の片づけを日ごろから行っているため、「実家の片づけを知る、考える」を担当いたしました。最近タイにはまっていて、タイ料理やタイ語を学んでいます。よろしくお願いたします。

(滝山 展代)



JR大宮駅西口 徒歩8分

自転車でお越しの場合、シーノ大宮駐輪場が無料でご利用になれます。



広報誌「鐘の音」のご感想、ご意見をお寄せください。

郵便、電話、FAX、E-mailでパートナーシップさいたままでお願いします。

パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」vol.56 2026年10月1日

(編集・発行)

さいたま市男女共同参画推進センター(愛称:パートナーシップさいたま)

編集員/麻生水緒、滝山展代、武田礼子、豊田真美、Mみえこ

〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-10-18 シーノ大宮センタープラザ3階

電話 048-642-8107 FAX 048-643-5801

E-mail: danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp

◆ホームページもご覧ください◆

パートナーシップさいたま

検索

10・3月発行(年2回)

この広報誌は3,000部作成し、1部当たりの印刷経費は66円です。

